

1 主題名 内容項目 「真の友情」 B— (8) 友情、信頼

2 教材名 出典

ライバル (中学道徳 あすを生きる② 日本文教出版)

3 主題設定の理由

(1) 教材観

啓介と康夫は仲の良い友人でもあり、水泳のトップを狙うライバルでもある。啓介はなかなか康夫に勝てずに悔しい思いをしていた。ある日、康夫が突然思い病気になる、入院する。啓介はライバル不在でトップに立つ可能性が出るが、良心の呵責に悩む。一方、康夫は絶望感から啓介の見舞いにそっけない態度をとったことを後悔し、手紙を書くことにする。葛藤しながらも、互いに信じ合い、認め励まし合うことでより強い友情が育まれるという、真の友情について深く考えられる教材である。

そして、この学習で友情や信頼について考えることで、SDGs の 16 番目の指標である「平和と公正」につながるのではないかと考える。

(2) 生徒観

誰にでも分け隔て無く接する生徒が多いが、信頼し合える友情を育てているかという点には疑問が残る。男女仲も悪くはないが、ペア活動や班活動ではお互いに今一步、踏み出せない様子も窺える。この教材を学習し、自ら友情を大切に、育てようとする態度を育てることや、信頼を基盤として成り立つ友情が人間として生きる上で、いかに尊いものであるかを実感できるよう相手の内面的なよさに目を向け、相手の成長を心から願って互いに励まし合い、忠告し合える信頼関係のよさを味わわせたい。また、友情を育むために自分はどうかあればよいか、友情とは何か、などについて考えをもたせたい。

(3) 指導観

人間の社会は、互いに協力することによって望ましい社会生活が営まれる。その中で生じる友情は、互いの個性を尊重し、支え合い、競い合い、高め合うことによって深まっていく。豊かな人間関係を築くためには、その場だけの関心や自分に都合のよい相手とだけの狭い交流にとどまることなく、さらに視点を広げ、積極的に生涯にわたる尊敬と信頼に支えられた友情について考えさせたい。

(4) 学校研究との関わりについて

「見通しを持つ為の工夫」・・・「ライバル」という 2 人の存在を通して、「友情、信頼」について考えていくことを冒頭で伝える。

「変容を自覚する工夫」・・・個→班→個の流れをつくり、生徒の考えが広がり、深まるようにする。

4 本時の学習

(1) 本時のねらい

生涯にわたる尊敬と信頼に支えられた真の友情について深く理解し、互いに認め、高め合う友情を育もうとする態度を育てる。

(2) 学習過程

<p>1～6 学習活動</p> <p>発問 (○) (中心発問◎) 主な意識の流れ (・)</p>	<p>時</p>	<p>●指導 ◇評価 (観点) <評価方法> *支援 【ICT】 ICTの活用 研究の重点①重点②</p>
<p>1 導入</p> <p>○友達と接する上で大切にしていることは何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うそをつかない。 ・約束を守る。 ・優しくする。 <p>2 学習の課題をつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>学習課題：友情を育むためには何が大切か？</p> </div> <p>3 自分で考える</p> <p>啓介の立場で考える。</p> <p>○自分が啓介の立場ならどう思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が一番になれるのでは。 ・康夫の病気を喜ぶのはよくない。 <p>康夫の心の葛藤を、自分事として捉える。</p> <p>○康夫は手紙にどんなことを書いたのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病気で弱気になっていたこと。 ・啓介への謝罪。 ・啓介の励ましが必要であること。 <p>4 自分の考えを伝え合う</p> <p>今回の出来事を自分事として捉える。</p> <p>◎啓介の心の葛藤を、自分だったら康夫に伝えるか。</p> <p>その選択で、2人の関係は変わるかどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・康夫に向き合い、自分の弱さを正直に伝えることで、2人の友情は変わる。 ・伝えないことで、2人の友情はこのままを維持するが、ライバルという関係だからそれでよい。 <p>5 みんなで考えを深める</p> <p>出てきた考えを、全体で交流する。</p> <p>6 自分の中の「わかった」を書く</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>友情を育むためには、相手に本気で向き合い、自分の中の弱さもさらけ出すことが大切。</p> </div>	<p>5</p> <p>10</p> <p>8</p> <p>12</p> <p>12</p> <p>3</p>	<p>生徒に事前アンケートを実施し、集計した結果を大型テレビに映す。【ICT】</p> <p>重点① 見通しを持たせる工夫</p> <p>●教材を通し、真の友情について考えていくことを伝える。</p> <p>啓介が複雑な心境であることをおさえる。</p> <p>●康夫は、ライバルの啓介に弱さを見せたり、気を遣われたりするの嫌であった。しかし、葛藤したのち、手紙で自分の弱さを啓介に伝えており、1つ深まった友情にめざめていることをおさえる。</p> <p>オクリンクを使い、伝える・伝えない、変わる・変わらないという軸でつくられた表に自分の考えを表す。できる生徒には、記述でも記入させる。入力したものを班で交流した後、提出BOXに送る。</p> <p>*記述での入力が難しい生徒は図形のみで表せられるようにする。(C→B)</p> <p>提出BOXに送られたものを全体で確認し、なぜこのように考えたのか意見を発表させる。</p> <p>●何を選択することが「真の友情」につながるのかを問いかける。</p> <p>重点② 変容を自覚させる工夫</p> <p>◇ 友情を育み得られる「真の友情」とは何か、自分事として捉え、考えている。</p> <p style="text-align: right;"><オクリンク></p>

(3) 参観の視点に関する工夫点

- ・オクリンクを活用し、子どもの考えを視覚的に提示する。
- ・教材の出来事を自分事として捉え、多方面から友情を育てようとする態度を養う。

(4) 板書計画

霜月八日

真の友情

ライバル

課題〈友情を育むためには何が大切か?〉

啓介の立場

嬉しい 悲しい

康夫の手紙

弱気な自分 啓介への謝罪

啓介の励ましが必要

啓介の心の葛藤を、自分だったら康夫に伝えるか。その選択で、二人の関係は変わるかどうか。

※オクリンクにて作成、出てきた意見を大型テレビに映す。

まとめ 友情を育むためには、相手に本気で向き合い、自分の中の弱さもさらけ出すことが大切。